

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol.20, No.1, 通巻92号 2016.6.15 発行

目次

ごあいさつ……………1	友の会20周年事業について…5
活動報告……………2~5	身近な自然シリーズ…6~7
	わたしの選ぶ“この一冊”…8
情報クリップ……………5	行事案内……………9~10

友の会創立20周年を迎えて

会長 鈴木 智明

第20回の総会を終え、友の会も20年に亘り活動を続けて来ました。これも皆様方のご支援ご協力のおかげと感謝しております。今回は友の会20年間の経緯を整理してみました。



1996年秋に友の会準備委員会を設置し、翌年1997年5月10日に友の会発足、交流会が実施されました。設立当初は、かなり博物館職員の方々にご尽力いただいたと聞いています。友の会通信は年6回発行、1998年度は4つのグループ（自然倶楽部、地学観察会、オープンラボ、用水路の観察会）が活動を行い、13講座が実施されました。その後は活動グループも増え、開催講座が増えるとともに組織体制のあり方を検討し、2001年度の第5回友の会総会において、「友の会規約」を策定、立候補により役員を選出、会長に濱田館長を迎え、また、博物館から友の会担当として職員にも加わっていただきました。それ以降組織的な運営を開始し、様々な講座や事業を実施して今日に至っております。

この度の友の会創立20周年を節目とし、友の会活動を振り返るとともに、これからの友の会をどのように運営していくか、担い手の問題や博物館との更なる連携などを検討していきたいと考えています。その方策として、今年度は友の会20周年事業を計画しています。ひとつは『友の会20周年記念誌』の作成で、設立に関わった方、講座の運営や友の会通信など活動を支えてきた方々のお話から友の会の歴史を記録にとどめ、今後のあり方を模索するための基とします。もうひとつは関連するイベントの開催で、故きを温ね新しきを知る人と人の交流の場を設けます。その中で、皆さんと一緒に、今後の友の会について考えていきましょう。ぜひ、ご協力をお願いします。

ごあいさつ

館長 平田 大二

友の会会員の皆さまには、日頃より当館の活動にご理解とご協力をいただき、大変感謝いたします。



4月は異動の季節です。当館でも退職された方、他の職場へ異動された方、新たに当館に来ていただいた方など顔ぶれが変わりました。新しい方々の名前と顔を覚え、交流を深めていただければと思います。学芸員も世代交代です。勝山輝男さんと私は、3月で定年退職となりました（ただし、二人ともまだいます）。一方、動物担当の学芸員として、フレッシュで前途有望な松本涼子さんと鈴木聡さんを迎えました。あらためて紹介があると思いますが、よろしく願います。

さて、昨年の箱根大涌谷での噴火の影響は、箱根全山にさまざまな形で及びました。神奈川県温泉地学研究所による詳細な情報提供により、箱根町や関係機関は冷静に対応ができたものと思います。友の会も構成団体となっている箱根ジオパークでは、住民に噴火状況を正しく理解してもらうために情報提供をしました。当館でもその情報を掲示して、来館者に伝えました。自然災害は、博物館施設も例外ではありません。人命だけでなく収蔵資料への対策も考えておく必要があります。

さて、当館は自然史に関する資料を集め、集めた資料を調べて学術的な付加価値を加え、その成果を利用者の皆さまに伝えるという、「集める」、「調べる」、「伝える」を3本柱として活動を続けています。そして、集めた資料を自然の証拠物として未来へ継承していくことを使命としています。博物館としては当たり前のこととは思いますが、一般社会ではまだ十分にご理解をいただけていないのも現実でしょう。日本女子サッカーチームの宮間主将が「女子サッカーをブームではなく、文化にしたい」と言っていました。この言葉は、博物館にも当てはまると思います。ブームは消え去りますが、文化は根付いていきます。博物館文化をもっと根付かせるためには、博物館を取り巻く方々と一緒に活動していくことが不可欠です。これからも、ご協力のほど、よろしく願います。

◆ 活 動 報 告 ◆

地学G
活動記録

大磯丘陵テフラ観察会

2016年2月13日(土)／大磯丘陵周辺／20名／講師：
笠間友博学芸員



「メガソーラーおおい」施設内のテフラ露頭



TB-1テフラ：
バヤリースの露頭解説

今までローム層と言うと、各イベント間の穴埋めくらいの地味な感覚と、あの細かい分類で敬遠しがちな分野でした。今回大河ドラマの伊賀越え場面を彷彿させる谷と沢を歩き辿り着いた露頭は、模式地と言うのに大変ふさわしく約3万年の間に起こった数多くの周辺火山の噴火の移り変わりを

表情豊かに繊細に記録していることが分かりました。各層にバヤリースやハムといったあだ名を付けているのにも茶目っ気とローム愛を感じた観察会でした。

(倉科 萌)

よろず
スタジオ

虫の口・羽

2016年2月21日(日)／博物館1階講義室／大人58人
子ども45名 計103名／講師：渡辺恭平学芸員

『よろずスタジオ』にボランティアとして参加しました。私の担当は小さな子どもたちにクイズが解けるよう解説することでした。イベントには小学生を中心に集まってくれました。虫に興味のある子からない子まで様々、学芸員の渡辺さんをはじめ、博物館友の会の方々は「どうしたら来てくれた子どもたち、そしてその親御さんが有意義に利用できるか。」一生懸命考えていました。そして、終わった

後にも今回の反省と次回への対策をチームで考えました。これから、環境の変化や社会の変化で自然とあまり触れ合えなくなるかもしれないこの時代。博物館など学校以外の教育機関が中心となり、このようなイベントが増えていったなら、好む好まないは別として、きっと子ども達にとって身になるだろうし、将来を考えるための1ピースになるだろうと思いました。

(田中魁人 大学生)



会場の賑わい



水をはじく蝶の羽実験

ミュージュフェスタ2016

2016年3月12・13日(土・日)／博物館／博物館職員・友の会役員有志・その他関係者

2日間にわたって開催されましたミュージュフェスタは、まさに「親子で楽しめる2 daysイベント」のキャッチフレーズそのものでした。

友の会コーナーでは、一年間の活動紹介や子ども向けイベントとして「きのこのスタンプ」と「どんぐりトトロ人形作り」を行いました。共に家族づれが絶え間なく参加してくださり、記録の写真を撮っている暇が無かったほどでした。この集客力の影には、ミュージュフェスタのチラシを地域の児童生徒全員に配付されたことがあったとのことでした。このような素敵で、年に一度のお祭りを是非継続していきたいものと思いました。そのためには、お手伝いできる方のご協力が切望されるとも思いました。

(飯島俊幸)



きのこのスタンプコーナー



友の会コーナーとどんぐりトトロ人形コーナー

地学G
地話懇話会

近代における箱根火山溶岩の石材 利用と土屋大次郎の企業家活動

2016年3月23日(水)／32名／神奈川県立歴史博物館
／話題提供者：丹治雄一氏（歴史博物館学芸員）、
山下浩之学芸員（生命の星・地球博物館）



地話懇話会風景（左：丹治雄一氏）



「白丁場石（講師後ろ）」の解説 今日参加者のみの特典に一同感動でした。次に石展に関する博物館の外壁材（白丁場石：しろちょうばいし）の解説に移

地球の造り出した石、その石展が神奈川県立歴史博物館で開かれている中、地話懇話会が行われました。まずは、その昔当博物館が銀行であったことから地下金庫室や屋上ドーム内の見学などがあり、

り、興味があったのは忍性僧が鎌倉極楽寺開山時、奈良から石工を連れて来たことです。境内に残る製薬鉢や千服茶臼などは、その石工が作ったのでしょうか？今回古文書等を紐解き、その石が国宝や重要文化財の建築材に使用されていることを調べた等、正に石の文化を研究されている丹治学芸員に賞賛の拍手を送ります。（小川治作）

樹木観察
基礎講座

針葉樹の自然誌

2016年4月9日(土)／博物館3階実習実験室／21名
／講師：樹形研究会代表・国立科学博物館名誉研究員 八田洋章氏

きれいな花も咲かず、一年中緑の葉をつけている針葉樹を、今まで注意深く見る機会がありませんでした。そこで今回どんなお話が聞けるのだろうか楽しみにしていました。種鱗、苞鱗、種子の話はとても興味深く、裸子植物の花は種子植物のそれとは大きく違うことがよくわかりました。いろいろな球果を拾っては解体して、種鱗、苞鱗、種子と確認してしまいそうです。受粉前の雌花も是非よく観察してみたいものです。針葉樹の森でも葉や花など、経過観察したいと思いました。八田先生、楽しいお話をありがとうございました。そしてスタッフの皆様ありがとうございました。（篠崎容子）



スライドを見て針葉樹の魅力に惹かれていきます



実物サンプルを見ると疑問だらけ

2016年度友の会総会&イベント

2016年4月10日(日)／生命の星・地球博物館 S E I S A ミュージアムシアター／総会35名、「平田さん 勝山さん おおいに語る」65名



新役員の紹介

2016年度の友の会総会を開催しました。昨年度の総会参加者数44名に比べるといくらか少なめでしたが、2015年度の活動報告、2016



講演後の質問タイム

年度の活動計画とそれに伴う会計予算の審議が行なわれ、無事通過することができました。来年度総会時には友の会創立20周年記念行事が予定され、記念誌作成に向けての準備も確認されました。新年度役員の顔ぶれは、会計監査の草山清美さんから新たに前副館長を務められた吉田弘さんに、また植物グループ代表は松井宏明さんから金子直子さんが1年ぶりに戻られる形で交替がなされました。博物館の友の会担当職員は、瀬能宏さん、田口公則さん、渡辺恭平さんから広谷浩子さん、大島光春さん、鈴木聡さんに変わりました。増田幸子さんには引き続きお世話になります。

今年の総会イベント「平田さん 勝山さん おおいに語る」は、お二人の定年退職の節目に博物館生活と友の会へのご意見などを伺うものでした。今までに聞くことがなかったようなお話も飛び交い、答えにくい質問にも応じていただき、楽しいトーク会となりました。参加者も65名を数えました。

平田さんは、そのまま館長に、勝山さんも学芸員として引き続き博物館に残られ、私たちはお世話になることとなります。(飯島俊幸)

よろず
スタジオ

巻貝の中はらせん階段？

2016年4月17日(日)／博物館1階東講義室／90名(子ども32名、大人58名) 講師：佐藤武宏学芸員、田口公則学芸員、

「巻貝の中はらせん階段？」前回(2015年10月18日に実施)に引き続き巻貝の中を予想してみるというよろずでした。去年は縦にスライスした貝を使って貝殻の中を予想していったのですが、貝殻の中が本当に巻いているのかという事が実感できにくいよう

でした。そこで、貝の中の様子が分かるように貝殻を縦に切ったり、横に切ったりした物を用意しました。タカラガイやスイジガイなどは巻貝といっても外見では実感がわかないようでしたが、横に2つに切った断面を見て中が渦巻になっている様子を見てやっぱり巻貝なんですね、と納得されたようでした。また貝殻の中が螺旋階段のようになると回ってつながっていることが分かるように、貝殻の先端部分を切り取り、切り取った部分からベアリングの玉を入れ転がしてみようという方法も試していただきました。上から入れた玉がくるくる回って下から落ちてくるのが面白くて、ベアリングの玉を持って何回も繰り返し転がしているお子さんもいました。

(佐々木あや子)



スイジガイの断面



よろずスタジオ会場の様子

地学G 地話懇話会 マグマ中の揮発性成分のお話 ～岩石の研究からわかること

2016年4月27日(水)／28名／博物館／話題提供者：山口珠美氏(箱根ジオミュージアム学芸員)

講演で初めに映し出された映像は、安山岩中に見られる斑晶の顕微鏡写真です。斑晶の内部には、微細な輝石や斜長石等の結晶の他に丸みを帯びたガラス包有物が観られるとの指摘があり、中には気泡を含むものも有りました。いったいこれは何を物語っているのだろうか、思いあぐね続けました。後半、

専門の方々から「マグマ混合」という言葉が飛び出しました。火成岩の多様性が生じる原因の1つには、この点にあるようです。異なるタイプのマグマの存在、部分溶融度の違い、またマグマの上昇やマグマ溜りでの結晶分化作用程度の違い、そして冷却過程や混合の仕方の違いなどが話題になりました。これらの地話懇話会での話題の展開は、瀬戸内火山岩類の分析に取り組もうとしている私にとっては、大きな刺激を得ることのできた貴重な時間でした。

(高橋 豊)



山口珠美学芸員による懇話会風景



参加者の皆さん

友の会20周年事業について

友の会では、今年度、創立20周年を迎えるにあたり、友の会発足の経緯や今までの活動を振り返りつつ、今後の友の会のあり方を模索するため、次の2つの事業を計画しております。皆さまのご理解とご協力をいただきながら進めて参りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

(1)「友の会20周年記念誌」の発行

- ・内 容：20年間の活動の記録や、これまで友の会活動に関わってこられた方からの思い出や活動の話、今後友の会に期待することなど
- ・構 成：A4カラー 50ページ程度
- ・配布先：友の会会員、関係機関等

(2)「友の会20周年記念イベント」の実施

- ・時期：第21回友の会総会に合わせ実施
- ・内容：シンポジウム等を予定

<寄付のお願い>

「友の会20周年記念誌」作成につきまして、下記のとおりご寄付を賜りたく存じます。何卒趣旨をご理解いただきご配慮を賜りますようお願い致します。

- ・一口1,000円（何口でも結構です）
- ・納入方法：同封の振込用紙にてお願いします。

<情報クリップ>

- 会員数443名 5月13日現在
(正会員442名、賛助会員1名)
- 平成28年4月 博物館就任報告
学芸部長 瀬能 宏 (前企画普及課長)
企画普及課長 広谷 浩子 (前学芸部)
情報資料課長 田中 徳久 (前企画普及課)
- 平成28年4月 博物館人事異動
<管理課>
転入：村尾 昌昭 管理課長
鈴木 泉
新任：黒澤こと美・内田 勝康
鈴木 保子・林田 夢路
転出：杉本 徹也 (前管理課長)
黒田不二穂・星野 進
退職：武藤 嘉昭・鳥居 幸夫・酒井 正伸

<企画普及課>

新任：勝山 輝男・平賀 保彦
加藤 淑和・中村 俊文
転出：高橋 正彰・滝沢 博・松本 康孝
退職：高橋 里恵
異動：田口 公則 (前学芸部)

<情報資料課>

転入：田中 慶次
新任：土屋 定夫・加藤 恵美
転出：堀井かおり
退職：堀尾 璃紗・星野美和子
異動：大坪 奏 (前企画普及課)
渡辺 恭平 (前学芸部)

<学芸部>

新任：松本 涼子・鈴木 聡
異動：瀬能 宏 (前企画普及課)
大島 光春 (前企画普及課)
佐藤 武宏 (前情報資料課)
加藤 ゆき (前情報資料課)



身近な自然シリーズ（その47）

博物館周辺の自然 入生田は動物園？

学芸員 広谷 浩子

■博物館の近くにどのような動物がいますか？

「ニホンザルがいます」と答えると、多くの人が驚きます。国道一号線や小田原厚木道路・箱根新道が通る交通量の多い場所で？ 「一号線を横断することもあるし、登山鉄道のホームに出てくることもあるんですよ」と、答えると、さらにびっくりされます。入生田動物園は、ちょっとオーバーですが、博物館の周辺には、いろいろな哺乳類がすんでいます。早川のほとりにある博物館は、北と南を丘陵地に囲まれています。ふもとに集落が広がる北の山は、明星ヶ岳、明神ヶ岳に至る地域で、常緑広葉樹も多く変化にとんだ植生となっています。早川をはさんだ対岸に広がる南の山は、植林地と果樹園が広がる開けた林地で、早川側斜面は砂質の土壌が特徴的です。これらを合わせて「博物館のお山」とよぶことにします。

■主な哺乳類は？

博物館のお山には、多くの哺乳類が生息します。博物館のイベントと関連づけながら、いくつかを紹介します。

ニホンザル 数少ない昼行性の哺乳類です。以前は箱根町の宿毛川の周辺にわずかに分布していた群れ（S群）を餌付したことから個体数が増えて、箱根、小田原、南足柄にまで遊動域を拡大するようになりました。

少し昔のお話ですが、博物館ではこのS群の生態に焦点をあてた特別展「サルがいてヒトがいて」を2000年に開催しました。30数頭のサルの顔をすべて覚えて、山中を追い続けた博物館ボランティア（当時）の頭本昭夫さんの尽力もあり、生き生きとしたニホンザルの姿を紹介することができました。関連イベントとして発振器をつけた動物をアンテナで探知しながら探し当てる観察会も開催しました。



ムササビ この森にはムササビも住んでいます。2009年開催の特別展「木の洞をのぞいてみたら」では、南北の山で見つけた大きな樹洞木を紹介し、樹洞をすみかとする動物について解説しました。博物館前の入生田駅の北にある山神社周辺の山林では糞や食痕を見つけることが多いです。

ニホンザルとムササビのバトル？の観察例もあります（『自然科学のとびら8巻1号』に掲載）が、最近の保護事例も印象深いものでした。入生田長興山のしだれ桜の近くで皮膜が有刺鉄線にからまって動けなくなったムササビが保護されたのは、2014年のことです。自然保護センターでムササビの保護放野を続けてきた加藤獣医の診察を受け、放野をトライすることにしました（写真）。段ボール製の箱を作って林の中に置き、復帰を促しましたが、残念ながら、成功しませんでした。加藤獣医によると、有刺鉄線にひっかかるムササビの例はこれまでもいくつかあったそうです。漆黒の闇の中を自由自在に滑空するムササビですが、人工物を木の枝葉のように知覚することは苦手なのでしょうか。



上であげた2種類の中型哺乳類のほかにも、博物館のお山には、アナグマ、タヌキ、ハクビシン、テン、イタチ、ウサギ、情報がほとんどありませんがキツネも生息しているようです。まだわずかですが、外来種アライグマの生息証拠も集まっています。

■新しい勢力がお山に君臨する日

入生田動物園とは、お山で出会った入生田の人が獣害の深刻さを嘆きながら言ったことばです。「動物園なんかに出かなくても、畑にはいろんな動物が来るよ。来て悪さをするから、もううんざり」。ニホンザルは、30年以上も前から果樹園や畑を襲う害獣として地域の人々を悩ませる存在です。これに加えて、近年はさらに強力な大型獣類との軋轢が問題となっています。

イノシシ もともと積雪地で生活することができないため、西日本を中心に生息するだけだったのですが、次第に生息域を拡大するようになりました。伊豆から箱根にかけての山中で見かけるだけだったのに、2000年前後より博物館のお山での被害が目立つようになりました。日中茂みの中でじっと休んでいるため、ほとんど出会うことはできません。しかし、畑を掘り返し、石垣を壊す痕跡は急速に広がり、農地に深刻なダメージを与えています。地面の掘り返しだけでなく、背丈の届くところでは果樹もよく食べることがわかってきました。1回の産仔数、2歳前後で出産可能になることなどから繁殖力は高く、個体数も増えています。

ニホンジカ 本年2月、博物館と環境省箱根自然環境事務所が主催して、「公開シンポジウム箱根、丹沢、富士山、伊豆半島におけるニホンジカ対策の現状」が開催されました。丹沢と同様に、箱根地域の被害は急速に増えています。小田原山盛の会と古林賢恒元東京農工大教授による精力的な調査によって、その実態が明らかになっています。たとえば林の下生えとしてふつうに見られたアオキの数は激減しました。入生田のお山で最初にニホンジカ生息が確認されたのは、2000年の初め。小田原市と箱根町の境にある山崎の牛頭神社で糞が見つかりました。その後さまざまな方から目撃情報が寄せられ、特に早川の河川敷では姿を

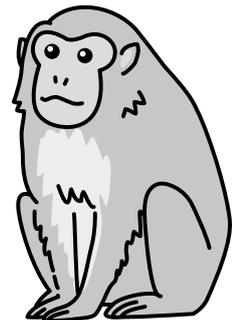
見かけることも多くなりました。(写真)



ニホンジカ被害のこわいところは、植物を食べつくすだけでなく、踏み固めの影響によって土壌も悪化させ、結果として森林全体を破壊するところにあります。

■まだまだいます

ここまで、中型・大型の哺乳類をみてきましたが、コウモリ・ネズミ・モグラなどの小型哺乳類も多数生息しています。2年前から開催している「アニマルトラッキング観察会」では、動物の足跡・糞を中心に痕跡を探し彼らの生態について学んでいますが、そこでは、クルミやドングリに残された食痕もたくさん見つけましたし、ヒミズというモグラの仲間の下顎の骨を見つけた小学生もいました。捕獲調査やセンサーカメラによる記録などによって、今後はもっと詳しく調べることができるとおもいます。



わたしの選ぶ“この一冊”

『子どもの哲学』

～考えることをはじめた君へ～



河野 哲也
土屋 陽介
村瀬 智之
神戸和佳子 著

毎日新聞出版
2015年

学芸員
大島 光春

「毎日小学生新聞」という小学生向けの日刊紙に「恐竜さんぽ」というページを4回書き、掲載紙をいただきました。その紙面で興味を持ったのが「てつがくカフェ」という記事です。小学生の質問・疑問にコーノくん、ツチャくん、ムラセくん、ゴードさんの4人の哲学者たちが意見を交わしながら、自分の考えを述べていきます。3月7日に「哲学対話を楽しもう 第5回哲学カフェ 参加者を募集します」という告知記事を見つけた私は、手帳で予定を確かめると、早速「恐竜さんぽ」の担当者に「オブザーバで結構ですので、会場に入れてください！」とメールを送信しました。すぐに「大歓迎です」というお返事をいただき、行ってきました。編集部で西村編集長他、編集部の皆さんにごあいさつしてから、会場へと向かいました。会場には50人くらいの参加者（約25組の親子）が集まっていました。この日の「問い」は事前に告知されていた3つから2段階の多数決で「なんで生きてるの？」に決定。低学年・高学年・大人の3グループに分かれて、哲学対話が始まりました。対話のルールは、①「人それぞれ」にしてしまわない、②「どうせ分からない」とあきらめない、③人の話を茶化さない、④えらい人の言葉をそのまま引用しない、だそうです。ツチャくん、ムラセくん、ゴードさんがそれぞれのグ

ループに入り、対話をリードしていきます。私とは、例えば、担当の方に「参加しないと理解できませんよ」と言われ、ゴードさんに率いられる大人の対話に参加しました。「なんで生きてるの？」という問いに対して、「楽しいので生きてる」とか抜かす奴（＝私）がいたかと思えば「子どもに必要とされているので生かされている」という方もおり、人生相談のような場面も展開されました。後半は大人と子どもが交じった対話になりました。その中で「大人と子どもとを比べるとどちらの方が自由だと思う？」に対して、大人は「大人の方が責任もある分、お金も時間も自由になるところが大きい。子どもは勉強が学校でも塾でもあって、宿題まであって自由は少ない」と思っているようでしたが、子どもからは「勉強はいやじゃない。知ることは楽しいし、授業や宿題でほめられるとうれしい。ひまな時間も多いので、子どものほうが自由だと思う」という意見がありました。互いに自分の方が、自由度が高いと考えている幸せな事例です。なかなか興味深いと感じました。

前置きが非常に長くてすみません。この本は、そんな哲学カフェを讀書で体験できる書籍です。問いの種類は「ふつうって何？」「頭が良い人ってどんな人？」などの小学生らしい素朴なものから、「なぜものには名前があるの？」や「無ってどんな空間？」といった博物学的なものまであります。「てつがくカフェ」の連載では3人の哲学者が意見を述べるスタイルでしたが、本書では最後に4人目の哲学者がみんなの思考をまとめています。でも、まとめは結論ではありません。哲学対話の楽しみは、自分のなかに生まれた問いをどこまでも突きつめて考えていき、わからなくなったり、もやもやしたりしつつ、答えを探しつづけることだからです。

このことをきっかけに田口学芸員に借りた『大切にしたいものは何？ 鶴見俊輔と中学生たち』や、娘に借りた池田晶子の『14歳からの哲学 考えるための教科書』を読みました。いずれも何気ない問いについて「考える」ことを奨励しています。仕事でも家庭でも何も考えずに「こなして」いることはないか。「どうして？」「なんのために？」を考えて行動しているだろうか。私もいい年になってきたので、急がず、ゆっくり考えて生きようと思います。えっ！早く原稿出せって！だからこれからはゆっくりと……

行事案内

◆「地話懇話会 ～地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う～」…第4水曜日／開催月

【7月の話題】

日 時：7月27日(水) 15:00～16:30

場 所：博物館 講義室

話 題：『ゴンドワナ大陸の誕生を探る旅

—マダガスカルの地質と人々—』

話題提供者：有馬 眞氏（横浜国立大学名誉教授）

*状況により話題（講座内容）等の変更があります。

対 象：友の会会員（原則）の当日来館者

参加費：無料（原則）但し内容により有料

（保険代、資料代等）

申込み：不要

連絡先：中村（良）

◆ プラクトン観察

「顕微鏡で観察・スケッチ・写真撮影」

淡水プラクトン観察を行います。講師やスタッフが採取水を準備しますが、お家の近くの池や小川、田んぼの水を持参し、観察してみませんか。

プラクトンの採取方法は返信はがきでお知らせいたします。

日 時：8月6日(土) 10:00～15:00

場 所：博物館3階実習実験室

講 師：小田部家邦氏

対 象：子ども・大人25名／オープン（抽選）

参加費：友の会会員、中学生以下500円／人

高校生以上の友の会非会員700円／人

締切り：7月21日(木) 必着

連絡先：矢野

◆ 子ども自然科学ひろば

「箱根火山の火山灰を調べてみよう」

箱根火山が噴出した火山灰（テフラと呼ぶ）の中には色々な造岩鉱物（岩石を造っている鉱物）が含まれています。この火山灰を洗って中の鉱物を顕微鏡で観察します。

日 時：8月12日(金) 10:00～12:00

13:00～15:00

場 所：博物館3階実習実験室

講 師：笠間友博学芸員

集合場所：博物館3階実習実験室

対 象：子どもとその保護者／オープン

参加費：無料

申込み：事前申込み不要

（当日3階実習実験室で受け付けます）

連絡先：中村（良）

◆ 第121回サロン・ド・小田原

「すべては元素でできている」

特別展「Minerals in the Earth —大地からの贈り物—」に関連して、展示担当のお一人である、平田大二館長の話題提供です。

話題提供者：平田大二氏（生命の星・地球博物館長）

日 時：8月27日(土)

場 所：生命の星・地球博物館

講 演：17:30～18:30（1階西側講義室）

交流会：18:40～20:00（3階レストラン）

参加費：講演のみの参加は無料です。

交流会参加費は、大人1,000円です。

申込み：講演の参加は、申込み不要です。

交流会に参加される方はFAX・はがきで友の会事務局までお申し込みください。

宛て先：FAX：0465-23-8846 友の会事務局宛

問合せ：博物館：0465-21-1515

（担当：田口・松本）

特 記：詳細は当館ホームページ等でご案内します。

◆ 「伊豆丹那断層観察会」

期 日：9月3日(土) 雨天決行

場 所：静岡県函南町周辺

集 合：JR小田原駅西口(新幹線側)北条早雲像下
8:00 集合後貸切りバス乗車

解 散：JR函南駅 16:00頃

講 師：大坂規久氏（伊豆半島ジオガイド協会）

山下浩之学芸員

対 象：大人40名（応募者多数の場合は抽選）

参加費：3,500円／人（貸切りバス代、資料代等）

参加人数等により多少の変更があります。

連絡先：中村（良）

その他詳細は同封の行事チラシを参照して下さい。

◆ よろずスタジオ

「いろんなカビを見てみよう」

カビの仲間は見た目は汚いですが、顕微鏡でみるととてもきれいですし、私たちの生活にとっても役立つカビも多くいます。カビに注目してみましょう。

日 時：9月11日(日) 13:00~15:00

場 所：博物館1階講義室(東側)

対 象：子ども(当日の来館者) / オープン

申込み：不要

参加費：無料

◆ 植物観察会『東京の里山・小野路の植物観察』

多摩丘陵の中でかつての里山らしさが色濃く残る小野路。今回は小野神社から小野路城址、奈良ばい谷戸などのルートを歩きます。里山の魅力を楽しみながら植物を観察しましょう。

日 時：9月25日(日) 8:45~15:00 雨天中止

場 所：東京都町田市小野路

集 合：小田急線鶴川駅 北口改札 8:45

解 散：小野神社 15:00頃

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：大人25名(応募多数の場合は抽選)

参加費：500円/人(別途バス代必要)

締切り：9月8日(木) 必着

担 当：友の会植物グループ

連絡先：石井

*詳細は返信はがきにてお知らせいたします。

◆ 『西丹沢細川谷ガーネット流紋岩の露頭観察会』

西丹沢周辺には、約250万年前の火成活動によって形成されたガーネット流紋岩の岩脈が点在します。今回は西丹沢細川谷のガーネット流紋岩露頭を観察します。

期 日：10月15日(土)

場 所：神奈川県山北町細川谷周辺

集 合：小田急線新松田駅バスロータリー横

9:15 集合後 9:35 発西丹沢教室

行きバス乗車(→細川橋バス停車)

解 散：小田急線新松田駅16:00頃

講 師：山下浩之学芸員

対 象：大人30名(抽選)

参加費：350円/人

締切り：10月4日(火) 必着

その他：状況により講座内容、場所、時間等の変更があります。やや健脚者向けです。

連絡先：中村(良)



博物館友の会主催各行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでは受け付けできませんので、ご注意ください。行事名/開催日/参加者全員の氏名・年齢(学年)/会員番号/代表者の住所・電話番号/指定事項、ご不明な点は、友の会事務局へお問合せください。

注意!

★参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

★オープンの行事は会員外の方も参加できます(参加費が会員とは異なる場合があります)。

★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

★チラシの発行されない行事もありますので、直接〈問合せ先〉へお問い合わせください。

★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

「友の会通信」第93号は、2016年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会

Vol. 20, No.1, 通巻92号 2016.6.15発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

TEL:0465-21-1515 FAX:0465-23-8846

E-mail: kpmtomo@ybb.ne.jp

Blog: <http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>

twitter: @kpmtomo